

ぬくぬく美味しい冬の北八ヶ岳（白駒池・にゅう）（個人山行）

（報告）TM

◎期日：2025年1月12日（日）～13日（月祝）

◎メンバー：TM（L）、FJ（SL）、KM、NH

久しぶりに遠出の山行となる雪の北八ヶ岳。八ヶ岳近くに山荘を持つNHさんにもお声がけし、前泊させていただくことになった。早起しなくても山行スタートできる贅沢な山荘プランの出来上がりだ。

1月の三連休、初日はどうしても午後後半からしか動けない言い出しっぺに代わり、FJさん、KMさんが買い出ししてくださり、15時半出発。中央道の韮崎を過ぎたころ、だんだん大きく見えてくる雪の八ヶ岳に、夕方の薄いピンク色の光が当たり始める。左には逆光の鳳凰三山と甲斐駒ヶ岳。柔らかい光に包まれた大きな山々が、ようこそ、と腕を広げて迎えてくれるよう。こんな黄昏れ時に山に向かうのもいいものだなあと、ちょっと脳みそがしびれる。

すっかり暗くなって山荘に到着。標高1500m以上の北八ヶ岳山麓は凍り付いている。NHさんとFJさんが先に入って、暖房をつけ、水を開通させてくれ、暖かな明かりのついた山荘にお邪魔した。

早速、買い出しのおでんを温め、オードブルを広げる。NHさんは新鮮なアジをさばいて、お刺身を振る舞ってくださった。用意いただいたお酒で話も弾んだ。食後は翌日の荷物をもう一度整理し、思い思いに好きな場所に陣取って就寝。

翌朝は7時起きと、これから登山に出掛けるとは思えないのんびりで、昨日の残りのおでんなどをおかず朝食。片付けはいいから早く出かけなさいとNHさんが促してくださり、お言葉に甘えて準備に専念、出発した。今回、NHさんは山荘に滞在される。

渋の湯の駐車場に車を止め、渋御殿の前を通過して登山開始。高見石方面に向かって斜面を登っている途中、すれ違う下山中の人々の足元を見るとアイゼン、チェンスパイク、登山靴などいろいろだ。岩があるのでチェンスパイクが快適だったというご夫婦もいた。我々も途中でアイゼンを付ける。KMさんはいろいろ試した結果、アイゼンなしで行くと決めた。KMさんならアイゼンなしでも全く問題ないだろうと思えたし、実際そうだった。



石ゴロゴロの賽ノ河原



歩き始めると、すぐ森の中

問題ないだろうと思えたし、実際そうだった。

楽すぎず辛すぎない上り坂を行き、森が途切れて見晴らしの良いところに出たが、この日はあいにくの曇り空、少し雪も舞ってきた。気温も下がってきたように感じたが、体を動かしているのであまり気にならない。



もうすぐ青苔荘

小屋のご主人と思しき男性が出てきてくれ、眉間に 1 本皺を寄せ、素朴な口調で、白駒池の散歩をしたいなら、受付する前にこのまま行って来い、一度靴を脱いだらもう外に出る気なんか起きないから、と断言。それもそうだと、大きな荷物だけ置かせてもらって、すぐに外に出て池に向かうことにした。もう一度呼び出して受付させてもらうことになってしまうので申し訳ない、と謝ったら、ご主人は「いいのいいの。空いてるから。うちは他の小屋に断られた人が来るところだから」と、それまで無表情だったのに、眉を上げ目を細めてニヤリとする。実は私も、別の小屋に電話して「1 月 12 日…」と言ったとたん「あー、満員です」と断られて、ここにしたのであった。目は驚いたまま、口だけ笑って、「いやいやいやいや、そんなことはないでしょう」と否定し、急いで会話を切り上げ池への散策に出ようと振り向いたら、FJ さんが「ハイ、こっち向いて～」と突然カメラを向けてきた。慣れた感じでご主人がピースするので、私もピース。「良い写真が撮れた」と FJ さんもニコリ。助かった。この小屋の良さに気づくのは、池の散策から戻ってすぐのことである。

白駒池は真っ白に凍っていた。荷物を置いて薄着のまま急いで出てきたことを後悔する。ご主人によれば、池の周囲はかえって溶けやすく、真ん中の方がしっかり固まっているから、周りを歩かず突っ切って行け、ということだった。氷の上はシュカブラができていたり、部分的に深く雪が積もっていたりして意外と平らでない。空はどんよりと白く、森の木々は黒い。池の上を歩く人間のジャケットだけがカラフルだ。



白駒池のシュカブラ

池を突っ切ると、明日行く予定のにゅうへの取り付きがある。どうやらこの季節、にゅうまで行く人は多くないらしい。ラッセルしたという山行記録を事前に読んでいたので、偵察は必須だった。案の定、湖畔から数メートル先で足跡は途切れている。背の高い FJ さんが入ってみるが膝より深い。これはラッセル必定、明日は NH さんお薦めの丸山経由でもと来た道を帰るか、などと直ちにプラン B の検討に入るも、ラッセルってやったことないから、ちょっとやってみたい、という好奇心もある。とにかく明日もう一度、ここまで来てみよう。

やがて賽ノ河原と呼ばれる石ゴロゴロのエリアを通過、麦草峠分岐を通過。高見石小屋に着くころには降雪量も増えてきた。アイゼンを付けたまま「おっとっと」と言いながら高見石の岩山に登る。降雪で煙った周囲の森や白駒池を望んでさっと降り、そのほとりの青苔荘に向かう。

FJ さんと KM さんは、雪のたっぷりついた森の下り坂をなんだか早足で歩いていく。私はもうすぐだし、と気分を緩め、のんびりモードで写真も撮り始めて遅れ気味。すぐに湖畔の道に出て、お世話になる青苔荘に到着した。

小屋に戻り、改めて受付。ここからは若いスタッフが対応してくれる。全員で大きなストーブのある暖かい食堂で椅子に腰かけると、テーブルに熱い紅茶とかりんとうが置いてあった。体が冷えていたのでありがたい！これだけでこの小屋が好きになる。この日は我々3名と女性2名のグループだけで、ほぼ貸し切り。居室は2階。冬季は雑魚寝にせず個室のみだそうで、私たちには2部屋使わせてくれた。窓が凍り、部屋の中はすごく寒いが、短い廊下を2台の石油ストーブで温めてくれているので、戸を開けていれば少しずつ温まる。そして、なんと電気毛布付きなので、夜はぬくぬくなのだ。1階の共有スペースもストーブ、こたつでどこも温めてある。トイレも新しく改装したばかりのようで明るいし、暖かいし、清潔な水洗で便座も冷たくない。宿泊者向けWi-Fiもあって、居心地良すぎ！

玄関のストーブの周りで、おやつタイム開始。ストーブの熱を借りて、KMさんからはカップ用の小さなラーメン、FJさんが運んでくれた赤ワインからホットワイン。もりもり食べていると、スタッフが「晩御飯、食べられますか〜？」と笑って通り過ぎる。もちろんいただきますよ！

同宿の女性2名も加わった。聞けば都岳連の東京北稜山岳会の山行とのこと。外のテン場には、他の仲間が幕営していて、明日は皆で北横岳方面へ行くそう。本当はお二人もテントの予定だったのだけれど、急に来られなくなった人がいて、共同装備が多くなるから小屋泊にした、せっかく大きいテントも買ったのに、と残念そうだった。KMさんから山岳会の課題などの話題を振ったところ、一般会員とは思えない、会全体の運営に悩む言葉が端々に現れる。夕食時に、実は会の代表さんだったことが判明し、やっぱり！と納得した。

夕食はお鍋、アユの塩焼き、とろろ芋にみそ汁、ごはんにつけ合わせ。お腹いっぱいになるたくさんの



温かい晩御飯でお腹いっぱい。最高の小屋でした！

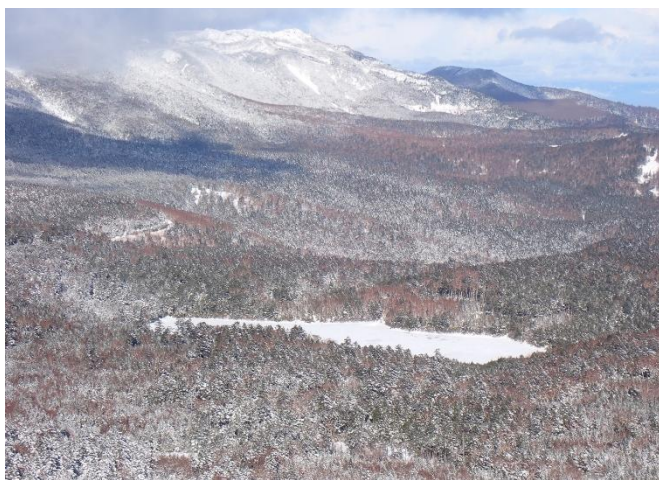
おかず付きで、他の小屋より安いのにこんなに出してもらっていいのかしら、と思うほど。翌朝の朝ごはんもおかずいろいろ、納豆と生卵、ご飯お代わりOK。ポットから行動用のお湯も分けてくれた。名物パンも特別なスイーツもお風呂もないけれど、青苔荘の心意気、最高じゃないですか！

さて、2日目。8時過ぎにのんびり出発。東京北稜山岳会の皆さんは1時間前に出発済み。再び白駒池をまっすぐ突っ切って、にゅうの取り付きへ。あれ！踏み跡ができています。そこそこの人数で踏んだようで、きちんと道になっている。先もずっと続いているようだ。ここでプランA復活！ゆっくり出発してかえってよかったのかも。先行の皆さん、ありがとう！行くぞ、にゅう！



白駒湿原

とはいえ、なぜか私は安定した足運びができず、右にふらふら、左によよろ、まともに歩けない。途中の白駒湿原では雪の下の木道を踏み外し、危うく落ちそうになった。木道にしがみついて無言で復帰。そのすぐ先でアイゼンを付けた。アイゼンの爪はすっかり凍って指がくっつきそう。この後、少し息を弾ませながら森の坂道をひたすら登る。行き先の空が明るくなってそろそろ稜線というところで、風通しのいい毛糸の帽子をかぶった頭が冷えてきて、目出し帽を追加。「マイナス 13 度」と、FJ さん。アウターの内ポケットに入れてあったカメラの



にゅう山頂より。白駒池が見える

続いて黒百合平に向かう。緩やかに上り下りする、静かな雪の森の道だ。ときどきソロの人とすれ違う。中山の展望台はパスして、天狗岳の見えるカーブに差し掛かると、あちらにも人がいるのが見えた。1 時間ほどで着いた黒百合ヒュッテの前庭は人であふれている。ここでも水分と行動食。トイレ前の大きな温度計はマイナス 8 度を示していた。

ここからの下り道は凸凹が消えて、とても歩きやすい。時々立ち止まって木の枝にたっぶり雪が積もっているのを見上げたりする。背後から「すいません、すいません！」と言いながら、靴のまますごいスピードで我々を追い抜き、滑り降りていく人がいて、思わず背中を見送る。危なっかしいが楽しそう。我々も夏の標準タイムより早く下り、無事渋の湯に帰り付いた。

すぐに車に飛び乗り、再び NH さんの山荘へ。NH さんはすぐに出発できるよう片付けを終えて待つ



にゅうに向かう森の中

レンズが結露している。ここで小学生の子供を連れた 3 人組が私たちを追い越していった。荷物はなかったので、白駒池に宿泊した人たちだろう。

にゅうの真下に着くと、頭上の森が開け青空が見えた。富士山も見えた。先程の 3 人組が山頂に先行し、我々もよじ登る。てっぺんで周りを一望。歩いてきた森の向こうには白駒池が見える。反対側にも森が広がり、如何にもハケ岳という風景。風が強く、互いに写真を撮りあって、長居せずに降りた。ここで水分とおやつをひと口。



下山道も雪たっぶり



とっておきの雪の赤岳、カッコいい！

ていてくれた。急いで登山靴や道具を外してザックやバッグに押し込み帰路に就く。窓の外はハケ岳や甲斐駒の風景が素晴らしすぎた。歓声を上げていると、NHさんがとっておきの赤岳展望ポイントに案内してくれた。ごく普通のカーブの下り坂なのだが、正面に雪の赤岳がごつごつとした山肌を見せて大きく聳えている。ものすごくカッコいい。その後も

展望が良すぎて、FJさんが機転を利かせて脇の農道に車を停めて写真タイム。ハケ岳が北から南まで全部、甲斐駒と鋸岳ほか、360度大迫力。取り囲む高い山を越えていかなければ、この土地から出られないと思わされてしまう。昨年7月にK2で遭難した平出和也さんは、この富士見町出身だ。こんな風景に囲まれて育てば、山への想いは都会人とは全く異なるものになるだろう。

厳寒期の山中に暖かい場所を確保し、美味しいものをお腹いっぱい食べて、美しい自然を愛でられるのは、今の世界情勢を俯瞰すれば幸運以外の何物でもない。同行の皆さま、楽しい3日間をありがとうございました。



ハケ岳一望

《コースタイム》

- 1/12：渋の湯駐車場（9:45）～麦草峠分岐（12:21）～高見石小屋（高見石）（12:26-12:51）～麦草峠分岐（12:54）～青苔荘着（13:19）、白駒池散策（13:40～14:30）
 1/13：青苔荘発（8:16）～にゅう取り付き（8:30）～白駒湿原（8:42）～にゅう直下（10:06）～にゅう山頂（10:12-10:20）～中山分岐（11:19）～中山峠（11:38）～黒百合ヒュッテ（11:46-12:07）～唐沢鉱泉分岐（12:34）～渋の湯（13:28）

※写真協力：FJさん

（終）